

命を守る・
平和をつくる

人道支援/
平和構築

コリア

国と国ではなく
市民と市民の関係づくりを目指して

南北首脳会談や米朝首脳会談の実現にみられるように、朝鮮半島をめぐる情勢が大きく変化しており、「和平」への期待が膨らみつつあります。ところが、国内では政治的意図による「北朝鮮脅威論」が根強く残ったままです。

日朝間に残る相互不信を払拭するには、軍事ではなく対話による解決の機運を広げ、市民に「メディアの情報とは異なる見方」を伝えていかなければなりません。いまこそ市民レベルでの交流を広げる時期にきています。



厳しい意見交換のあと、仲良く自撮りする日朝の大学生たち

南北コリアと日本のともだち展

【活動概要】1995年、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に大きな被害を及ぼした大雨洪水被害への緊急支援以来、JVCは他NGOとともにネットワーク「KOREA子どもキャンペーン」を組み、北朝鮮の子どもたちへの支援を行ってきました。

一方、2001年に開始した「南北コリアと日本のともだち展（ともだち展）」では、日本、韓国、北朝鮮、中国で絵画展やワークショップを開催し、行き来することの難しい東北アジアの子どもたちがお互いのことを絵で紹介しあい、将来の「ともだち」になるため、絵を通して「出会う」交流の場となっています。

【成果】18回目の開催となった2018年度は、北朝鮮、韓国、中国、日本でワークショップを行い、子どもたちの作品を集めたほか、「ともだち展」は東京・埼玉・大阪・福岡に加え初めて熊本でも開催されました。絵画展に参加した子どもたちと協力者、観覧者は、日本で約570人、韓国で約50人、北朝鮮で約50人となりました。



初めて「ともだち展」が開催された熊本では、代表の今井が平壤で行われた交流について講演

東北アジア大学生 平和交流プログラム

【活動概要】2012年から続く「日朝大学生交流」では平壤で日本語を学ぶ朝鮮の学生たちと日本の学生たちが交流してきましたが、2018年は平和な東北アジアを担う若者リーダーを育成するための「東北アジア大学生平和交流プログラム」を策定しました。「日朝」を主軸とした大学生交流に日韓・日中も含め、大学生が重層的に交流しながら、交流・勉強会を年間で実施しています。



2年ぶりに再会した大学生交流では「信頼関係を築くためには」をテーマに意見交換

【成果】2018年は、新プログラムをトライアルとして実施し、東北アジアの平和に関心を持つ大学生を対象に勉強会を全5回開催しました。

平壤訪問の際には2年ぶりに「日朝」大学生交流が行われ、日本の学生6名と平壤の学生8名が参加しました。意見交換会では、ときには「日本はまずは謝罪せよ」との厳しい意見も飛び出しつつも、互いに意見の違いを共有することの意義を確認しました。

また平壤からの帰国後に実施した大阪フィールドワークでは、コリアタウンを歩きながら歴史を学び、在日コリアンや朝鮮学校など、「日本圏内での生きづらさ」という問題にも関心が広がった学生もあらわれました。



あらためて在日コリアンに関する歴史を学んだ大阪フィールドワーク